

責任

岡山県立倉敷工業高等学校 資格検定指導室 資格検定NEWS

責任とうい言葉を聞くと、一歩退いてしまう。

また、最近よく聞く言葉の一つに「自己責任」がある。あなたの判断でしたことには、あなたが結果を受け止め、他人に原因を求めるなというニュアンスに受け止められる事が多い言葉である。



ビアス著「悪魔の辞典」（新編 悪魔の辞典 ビアス著 西川正身編訳 岩波文庫）で「責任」を調べると『自分の肩から取り下ろして、神なり運命なり宿命なり廻わり合わせなり、あるいは隣人なりの肩へ容易に移すことのできる重荷。占星術が行われていた時代には、星に肩代りをしてもらうのが普通だった』とある。

また、鷲田清一は「折々のことば」（朝日新聞 4月18日朝刊）で苅谷剛彦と吉見俊哉との対談『大学はもう死んでいる？』を取り上げて、苅谷剛彦が『英語で「セルフ・レスポンシビリティ」という言い方は普通しません。「レスポンシビリティ」だけで十分だからです。』と述べたことを記している。この言葉を『責任とは相手に応答（レスポンド）できること。何かを委（まか）されているとの自覚をもって処すること。それは人への「信頼」があってはじめて可能だ。お前の責任だと突き放すのも、責任の所在を不明にして共有するのも、責任逃れでしかない。』と、解釈している。

教員である私も生徒のみんなに「高校にいる間は、何か事が起きても、保護者の方が弁明してくれるかもしれない。しかし、卒業して社会人になったら、全てはあなたの責任。他人に弁明してもらうことはできない。」と話してきた。「高校生のみんなが欠席するときには、保護者に学校に電話してもらう。社会人となった後のみんなが会社を休むときには、みんな自身が会社に連絡する。」

他者と自分との関わりの中で「責任」とか「自己責任」をどのように捉えていくのか、臨時休業中で自宅にいる、生徒の皆さんにも是非考えて欲しい。